

雇用促進・人材育成委員会 議事録

1. 日 時 令和4年6月3日（金）14時～15時30分
2. 場 所 春日井商工会議所 1階 大会議室
3. 出席者 委員長 1名
副委員長 1名
副会頭 1名
委 員 12名
アドバイザー 1名
オブザーバー 3名
事務局 6名

合 計 25名

4. 協議事項

- 1) 雇用促進・人材育成委員会の所管事項について
 - ・令和3年度事業実績
 - ・令和4年事業計画及び実施状況
 - ・令和4年度 新春経済講演会の講師選定について
- 2) 情報・意見交換

5. 議 事

課 長 小栗 忠昭

定刻に至り、開会を宣し峠委員長に挨拶を求める。

委 員 長 峠 貴斗

挨拶を述べる。

課 長 小栗 忠昭

今年度より、新しく委員会に参加する市産業部森本部長・春日井公共職業安定所伊藤所長を紹介。

委員会規定により、議長に峠委員長を指名し、議長就任を要請する。

（委員長 議長に就任）

議 長 峠 貴斗

議事に入り、協議事項1. 雇用促進・人材育成委員会の所管事項について事務局に説明を求める。

書 記 丹羽 良哉

資料3～7頁に基づき、令和3年度事業実績・令和4年事業計画及び実施状況・新春経済講演会の講師選定について結果及び計画を報告。

議 長 峠 貴斗

協議事項1について、オブザーバーへ意見を求める。

オブザーバー 森本 邦博

雇用ができるようになっていけば、会社の発展へとつながるため、この後の意見・情報交換時に率直な声を聞き、市として何ができるか考えていきたい。

オブザーバー 伊藤 勝敏

有効求人倍率を見ても、コロナ前の水準から半減しているが、徐々に右肩上がりにはなっている。昨年从小牧市と春日井市と雇用対策連携協定を結んでおり、各種支援策を拡充し市内企業に市民の求職者が希望の仕事に就けるように努力していく。また、国の政策の一つだが、人材開発支援助成金というものがあり、DX・IT分野の能力を身に付ける際に掛かる経費（教育・人件費等）が対象となるため、活用いただければと思う。

オブザーバー 金子 幸治

企業が人を取っていく上で、この地域を見た場合、地元の中部大学・工科高校への働きかけが重要になってくるため、市としても会議所と協力していきたいと思う。

議 長 峠 貴斗

続いて、協議事項2について、実施方法を説明。新春経済講演会の講師案については、現職の経営者から生身の経営感覚を市内の経営者にご披露いただきたいと考えている。また、これまで新卒者をターゲットとしていたが、中途・アクティブシニアの雇用に力を入れていくため、成功事例等を伺えたらと思う。後は、セミナーの出席率を上げるために、参加したいと思える内容について、グループに分かれて発言を求める。

(4 グループに分かれて意見・情報交換)

各グループから出た主な意見

〔新春経済講演会の講師案〕

- ・「オレンジの悪魔は教えずに育てる」の著者、田中宏幸氏の人材育成術は面白い。
- ・トヨタ自動車の豊田社長や Microsoft、Google 等の海外の経営者。
- ・昨年に引き続き女性シリーズとして、DeNA の南場氏。他にサイバーエージェントの藤田氏、GU の柚木氏。
- ・イーアスが出来たことで、無印良品と春日井市が連携協定を結ぶ等、地域密着・貢献の思いが強い企業（良品計画）で、タイムリーだと思う。

〔中途・アクティブシニアの採用・活用〕

- ・若い人が来ないため、中途採用（営業職）を行っているが、なかなか集まらない。
- ・社内で育った方を再雇用する場合は、内部のことを理解しており、自ら動いてくれるため非常に助かる。
- ・資格を多数保有しているシニアを採用した結果、若手社員の育成を内部で行えるようになり、研修費の削減になった。
- ・5、60代は家を所有している等、地元を簡単に離れられない理由もあり、若手より定着率が高い。
- ・社員からの紹介による採用は定着率が良い。また、紹介者への報奨金について就業規則に記載した。

〔参加したいと思えるセミナー内容〕

- ・USJ を再建した森岡毅氏の話聞いてみたい。
- ・コロナ明けを念頭に置いた内容が良い。（外国人雇用・後継者問題等）
- ・経営者を対象とした労使トラブルの対処法等、現実的な内容。

課 長 小栗 忠昭

以上で意見・情報交換を終了し、アドバイザーの中部大学寺澤氏より意見を求める。

アドバイザー 寺澤 朝子

セミナーや講演会に来てもらうには、その人のオーラやエネルギーを感じて元気になることや、何か1つでもヒントが得られるように、フェイス to フェイスを大切にすること

とが大事だと感じた。また、デジタル推進化（DX）が進んでおり、大学のHPも先日改修したばかり。しかし今後、大学が持っている全データのシステムを変えようとする、十億円規模（メンテナンス含め）の費用が掛かるとのことで、これからのDXにはお金が掛かる時代となる。今、中小企業のIoTについて研究をしており、企業が一番困っていることは、システムを委託するのにお金が掛かり、メンテナンスやカスタマイズする人間が社内にはないと無駄になってしまう。会議所に期待したいのは、中小企業なりのIoTのやり方・事例の情報を収集し、会員事業所内で実際にやってみることで、そこまで難しくないと周知し、メーカーを中心としたDXが少しでも進んでいくと良い。

課長 小栗 忠昭

副委員長より挨拶を求める。

副委員長 服部 律子

今回初めて4つのグループに分かれて、少人数での意見・情報交換を行ったが、非常に良い時間を持つことができた。今回出た意見が、ここで終わらずに何か姿形を変えて実現できるように皆様と協力していけたらと思う。

課長 小栗 忠昭

本日の雇用促進・人材育成委員会の閉会を宣す。

時に15時35分